

春の訪れをまつ清閑な冬の景色を映し出す 「冬のこおり」展を開催

会期：2019年1月18日（金）～2月8日（金）

会場：MINA-TO（スパイラル 1F）



写真左：宇田川愛《ice bridge iv》、右上：高崎紗弥香《Fragment of Silence #19》、右下：《Birds by Toikka》

鮮度の高い品々が集まる港のように、都市における文化の港を目指すスパイラル 1F のエントランスにある MINA-TO では、季節ごとに旬のクリエイションを集めた企画展シリーズを定期的に開催しています。1月18日から開催する「冬のこおり」展では、大寒と呼ばれる一年で最も寒いこの時期に春の訪れをこころまちに過ごす日々をテーマに、ペインティング、写真、オブジェなどのアート作品、そしてアクセサリーを取り揃えます。春をまちわびる白銀の世界を描いたアーティストの宇田川愛のペインティング、写真家・高崎紗弥香によって切り取られた雪解けをまつ山中の氷の写真をはじめ、北欧のガラス作品として絶大な人気を誇る「Birds by Toikka」や、ジュエリーブランド・プフツェによる芽生えを連想させる種子を閉じ込めたオブジェ、ON glass jewelry によるガラスのアクセサリーをご紹介します。凛とした表情の作品をぜひ日々の生活に取り入れてみてはいかがでしょうか。

開催概要

冬のこおり

会期：2019年1月18日（金）～2月8日（金） 11:00-20:00 会期中無休

会場：MINA-TO（スパイラル 1F） 東京都港区南青山 5-6-23

お問い合わせ先：03-3498-4015

URL: https://www.spiral.co.jp/topics/mina_to/2019winter

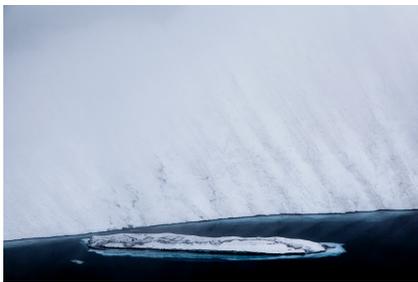
出展作品（順不同）



《ice bridge iv》

宇田川 愛 (Ai Udagawa)

1979年東京生まれ。1999-2003年東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻。2003-2004年東京芸術大学大学院版画研究科。2005-2008年国立カールスルーエ芸術大学絵画科。「理想郷=Utopia」を題材に、シルクをキャンバスとして用い、その上に刺繍やペインティングを施すことで、柔らかく幻想的なイメージを生み出し、物語性のある独特の作品を制作している。



《Fragment of Silence #19》

高崎 紗弥香 (Sayaka Takasaki)

1982年生まれ。写真家。法政大学社会学部社会政策科学科卒業。大学時代より写真家のアシスタントを行い、独立。「SICF13」(2012)にて準グランプリ受賞。GALLERY エクリュの森(静岡)、六本木ヒルズクラブでの個展、ART FAIR TOKYO やグループ展に参加。2016年には写真集「沈黙の海へ」を出版。

**Birds by Toikka**

フィンランドの偉大なガラスデザイナーの一人オイバ・トイッカ(1931-)がイッタラのためにデザインしたガラスのオブジェシリーズ「Birds by Toikka」は、彼の代表作の一つであり、世界中のコレクターを魅了している。

**プフツェ (Pfütze)**

Pfützeはドイツ語で水たまりという意味。北康孝、賀来綾子の2人でデザインから製作までを行う。シルバーやゴールドを素材としたジュエリーは全て自然物・現象をモチーフとしている。新鮮な驚きやおもしろさとともに、うつくしいと感じるもの、身につける楽しさを感じられるものを制作している。

**ON glass jewelry**

型を使わず「ガラスの一点モノ」にこだわるジュエリーブランド。身につけた時の印象を大切に、自然な透明感が出るよう心がけている。ガラスだからこそできる表現と表情を見つけながら、タイムレスなかたちの中に少しアドバンストな要素を加えて永く愛せるジュエリーを制作している。